



目次：子ども議会/ESD研修会/ESD全国フォーラム/つながる/現場から/お知らせ

11月20日 山ノ内町子ども議会が開催されました

山ノ内町役場の実際の議場を会場に町ユネスコスクール3校の全6年生80名が参加して「子ども議会」が開催されました。

- ・西小学校6年は「地域で考える高齢者の防災」として、近年の災害調査から70歳以上の被害が大きいことから高齢者に絞った防災対策を考え提案した。高齢者では家具の転倒防止の割合が低いので防止金具を配布し希望者には設置も行うなど具体的かつ実用的な提案であり感心させられた。
- ・東小学校6年1組は「山ノ内町を訪れた観光客に、もっと山ノ内町を楽しんでもらうために」として道の駅のさらなる活用と志賀高原のスポーツイベントの提案をした。多くの人が立ち寄る道の駅で町を紹介するビデオがあればと自分たちで見どころ食べどころのビデオを作りその一部を披露してくれた。
- ・南小学校6年は「小学生や地域の方が作った焼き物の販売と「焼き物祭り」の開催」として総合の時間で取組んだ焼き物が楽しくかつ生活にも役立ち喜ばれたことから「山ノ内焼」として名産化し祭りも開催したらと提案した。
- ・東小学校6年2組は「山ノ内町の良さを発信し観光客を増やすための花火大会復活」として今年度から中止されてしまった花火大会を観光のためにもぜひ復活すべきとして具体的な1泊2日のツアープランを提案した。



いずれも実地見学やアンケートなどの根拠を基にかなり具体的な提案をおこなっており、児童の地域活性化の熱い願いが感じられた。議会や行政にこうした声を受け止め、児童との協働が実現すればESDとして大きな前進と言えるだろう。
(渡辺隆一)

11月28日 山ノ内町西小学校でESD研修会が開催されました

「ユネスコエコパーク・ESD・総合的な学習の時間」の研修会が開催されました。実践報告は1年生の「ヤギ飼育」が生活科研究授業資料、指導案を元に、5年生の「米作り」が学年通信1～8を元に、6年生の「防災教育」が児童が作成したパンフレット、子ども議会質問通告書を元に発表されました。それぞれの報告を1. 予定調和ではない学びをどう実現するか、2. どのような資質、能力を育むか、の2点から水谷コーディネーターの司会により質疑・討論をおこなった。これらを受けて、目白大学の石田好広教授から、ESD授業の学習過程としては「つかみ・調べ・まとめ・行動」があり、6つの構成概念にさらに「生命尊重」を加えたい、今回はこれらがとても良く実践されていた、とのご指導、評価をいただきました。さらに、子ども議会での6年生の提案は具体的ですばらしいのでひとつでも実行されるとうれしいですと期待されました。山ノ内町議会副議長が参加しており実現するよう努力したいと受け止めていただいたので今後の展開が期待されます。こうした学校から地域への活動の広がりにはまさにESDと言えるでしょう。
(水谷瑞希・渡辺隆一)

11月30-1日 ESD推進ネットワーク全国フォーラム2018に参加しました

国立オリンピック記念青少年総合センター(代々木)において、ESD活動支援センター、文部科学省、環境省の3者主催で行われ、信州ESDコンソーシアムも展示出展しました。ESD推進ネットワークは、文部科学省と環境省が連携して、日本におけるESDの推進を目的に構築しているネットワークで、①ハブとなる『ESD活動支援センター』(全国と8つの地方センター)、②様々な地域レベルのESDを推進、支援する『地域ESD拠点』、③地域のESD活動を実践する組織・団体・個人などの実践者、という3層に整理されています。信州ESDコンソーシアムは、このうち②の地域ESD拠点として位置づけられています。

フォーラムの一日目にはESD推進ネットワークの意義や多様な主体の活動事例紹介、関係省庁の取り組みなどの講演やパネルディスカッションが行われました。信州ESDコンソーシアムも、ブース展示で取り組みについて



の紹介を行いました。フォーラム二日目は、分科会に分かれてESD実践の共有と議論が行われました。信州ESDコンソーシアムからは水谷コーディネーターが、「分科会1:学校と地域で進めるESD」において、志賀高原ユネスコエコパークにおける地域資源を活かしたESD実践について紹介しました。グループ討議を行う分科会とはいえ、参加者はなんと70人超え。中澤先生(奈良教育大)の卓越したファシリテーション技術で、変形ワールドカフェ方式で互いの気づきを共有しました。参加者の中から出てきたポイントは、ユネスコエコパーク

の地域資源には、本物に触れる「原体験」がある、ということ。あまりに身近にありすぎて忘れがちだった地域の価値を、あらためて認識することができました。参加者は約230人と盛況でした。(水谷瑞希)

12月2日 『「みんなの学校」から考える教育のカタチ』が開催されました

信州大学教育学部で、長野ユネスコ協会青年部つながる主催で開催されました。第一部は、大阪市立大空小学校のドキュメンタリー映画「みんなの学校」が上映されました。子どもからご高齢の方まで83名の参加がありました。映画終了後は、グラフィックレコーディングによって描かれた映画のあらすじに感想を書いた付箋を貼り、小グループになって映画から学び得たことを共有しました。第二部は、「みんなの学校」をきっかけに教育と未来のカタチについて考えるワークショップを行いました。グループでテーマを設けて語り合った後、ユネスコ学習権宣言と大空小学校の学校理念「すべての子どもの学習権を保障する学校をつくる」との繋がりや、SDGs4を取り上げ2030年の教育の在り方についても思いをめぐらせました。最後は、ワークショップを通して考えたこれからの目標を一人ひとりが発表しました。第一部のみの参加者も多く、また新潟県や山梨県からの参加者もあり、映画「みんなの学校」に対する注目度の高さがうかがえました。映画を通して普段は関わることの少ない多様な人々が集い、共に教育の未来について考える場を作り出せたことは、SDGs4の達成にも貢献し得た企画であったように思います。(安達仁美)



ESDの現場から

グリーンウッドは、1986年に南信州の泰阜村で山村留学をはじめ、2001年にNPO法人化されました。山村留学は「暮らしの学校・だいだらぼっち」として全国から約20名の子どもたちが集まりその共同生活は若者達によって運営される村では大きな組織でもあります。だいだらぼっちでは人間の土台をつくるため地域に根ざした「暮らしから学ぶ ねっこ教育」を推進しています。ねっこ教育とは「環境破壊、食糧問題、戦争など今の地球規模での課題は山積みです(中略)今のこどもたちに本当に必要な力、それは、自らの力で人生を切り開く力であり、自分たちで社会をつくりあげる力です(中略)そのための人間の土台をつくる3つの根っこは何か?未来をつくる人になるために必要な3つの心、感じる心、楽しむ心、生み出す心」です。また、夏休みと春休みには「山賊キャンプ」として長期の野外活動を開催し、毎年多くの子どもたちや大学生スタッフが村の自然と暮らしを舞台に大きな学びを得ています。それは、村にとっては都市と山村との大きな交流事業でもあります。



こうした活動は地域の人々の意識も「やはりこの村がいい」と変え、学舎への日々の食糧の供給などで村の産業にも大きな影響を与え、山村留学生と交流した村の青年がUターンし始めているなど大きな変化をもたらしています。教育に地域の暮らしを取り入れることが、村の未来を創ることに繋がっていったのです。泰阜村では人づくりによって自立する「教育立村」をめざしています。地域創生力の事例として全国にも発信されておりESDの力の発現でもあります。(渡辺隆一)

お知らせ

- 1月26日と2月2日に信州ESDコンソーシアム成果発表&交流会が松本会場と長野会場で開催されます。ユネスコスクールや構成団体などの発表などが行われます。参加および発表の募集をおこなっています。発表希望者は事務局までご連絡ください。

- ①<松本会場> 開催日:平成31年1月26日(土)11:00~15:15
開催場所:午前 信州大学経法学部講義室(松本キャンパス)
午後 信州大学理学部講義室(松本キャンパス)
- ②<長野会場> 開催日:平成31年2月2日(土)11:00~15:00
開催場所:信州大学教育学部図書館2階大講義室



信州ESD通信

No.21 2018.12.10

発行:信州ESDコンソーシアム事務局 編集:渡辺隆一
〒380-8544長野市西長野6 信州大学教育学部
事務局:白岩/大山 TEL026-238-4034 kyoed@shinshu-u.ac.jp